

ZEPPAN

カップル・夫婦で楽しむ

# Bike Life

An important partner

同じ目線、同じ景色を見ながら人生を共に歩む。今、そんな大切なパートナーと一緒に気に入りのバイクを購入し、楽しんでいるライダーが増えている。そして、そんな人達をバックアップし、応援しているのがウエマツだ。ここでは、そんな充実したバイクライフを楽しむ方々を紹介する。

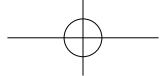
紅葉を狩るヤマハ乗りの2人  
夢は地元で帰省し旧車ライフ

東京都内に暮らす彼・翔平さんと彼女・紅葉さんは、2人で仲良くヤマハRZ&RD乗りだ。中学時代の先輩・後輩から恋人となり、もう15年の歳月を一緒に過ごして来た。

三兄弟の末っ子に生まれた彼は、長男がCBR、次男がCBXに乗る背中を追うように当然バイク好きだった。すでに小5の頃、次男のCBX後席に乗っていたと振り返る。

「16歳でバイク免許を取って、RZに乗る予定でした。でも地元・山口には、2ストをメンテナンスしてくれるショップがなくて諦めました。アメリカンのホンダ・ステイードや現行車のカワサキ・ニンジャ、先輩から譲り受けた旧車も含めて、10年間で数え切れないほど乗りましたね(笑)。26歳から今夏7月まで4年間は、今まで乗ったことがなかったカワサキZ400FXに乗りました」

そんな彼がFXを手放し、RZに乗り換えたキッカケは彼女だった。昨夏8月にバイク免許を取った彼女が、ウエマツで目惚れしたRDを購入したからだ。彼



人生を共に歩む最愛のパートナーと過ごす充実した時間

女がバイクに乗るキッカケは、間違いなく彼の影響だった。「幼い頃からクルマやバイクが好きで、早く運転したかったですね。でも仕事や習い事が忙しくて、免許を取る機会を逃してました。FXに乗る彼と一緒にツーリングへ行きたいと思って、免許を取りウエマツで愛車を探しました。初めての愛車は絶版バイクと決めただけ、何を買ったら良いか迷いましたね。彼と一緒に見に行ったウエマツで、このピンクのRDを見つけた時は、「コレだ！」と即決。じゃじゃ馬の2ストを乗りこなしたくて、今では本当にカワイイ大好きな愛車です!!」と話しながら目を輝かせた。

彼女が72年式のRD350に乗って約1年4ヵ月、純正オリジナルで綺麗に保つコダワリを持っている。本来の外装カラーは赤だが、経年劣化した結果の良い意味で女子らしいピンク色が気に入っている。免許を取りながら彼の愛車FXより速い愛車を探し、2ストは絶対条件で今後も2ストしか乗りたくないらしい。今後は大型免許も取って、スズキRG500ガンマやヤマハRZV500にも乗ってみたいそうだ。

Owner | 田村翔平 / 鹿島紅葉さん

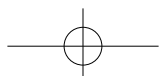
■愛車：ヤマハRZ250 / RD350  
■所有歴：約4ヵ月 / 約1年4ヵ月



彼の愛車RZ250は、パールホワイト×ブルーのインターカラーで海外仕様のRD350風を再現した。アンダーカウルにK2tecマフラー、NITRONサスなどで武装する。旧車と感ぜさせないスポーティな外観で、速そうなバイクにコダワリながらカスタムを楽しんでいる。ちなみにホンダ・ダックス70も所有し、イチからコツコツとレストアしたそう。



彼女の愛車RD350は、赤が色褪せてピンク外装に見える。できるだけ純正オリジナルで、大切に長く乗りたいと思っている。クルマの免許もないバイク免許を取り立て時期で、納車日に初めて公道を走り、下道で1時間半も半クラ練習した思い出も嬉しい。習い事のバレエ・日本舞踊や乗馬を終えて、今はパートナーの彼と同じ趣味の絶版バイクに夢中だ。





○ Owner | 下谷祥大 / 中町有里さん ○

■愛車：ホンダCB400Four / CB400Four

■所有歴：約3年 / 約5ヵ月

仲良く赤いヨンフォアに乗る  
ペアルックならぬペアバイク

赤いヨンフォアに乗る2人は、  
神奈川に住む彼・祥大さんと彼  
女・有里さん。約1年前に友人  
を通じて知り合い、付き合ってから半  
年になる20代前半のカップルだ。

「16歳の時、何も趣味がなかった  
自分に母親が、バイクの免許、  
取って見たら？」の一声がキッカケ  
でした。それからバイクに興味を  
持ち始めて、雑誌やネットで調べ  
るうちにドンドン引き込まれまし  
たね」

彼は16歳でバイク免許を取  
り、カワサキ・ゼファー400X  
に乗り始める。18歳でクルマの  
免許も取ったが、友人のアメザリ  
にタンデムしてバイク熱が再燃。  
約3年前の21歳の頃、ホンダ

V-TZ250からヨンフォアに乗  
り換えた。

友人にバイク屋を聞いた彼は、  
絶版ウエマツへ見に行こうとなっ  
た。このヨンフォアを見た時、ピ  
ットと来た。初来店からヨンフォ  
ア狙い、2度目の来店で購入し  
た。神奈川へ愛知・名古屋を  
ツーリングし、片道300キロ  
往復600キロを元気に走って  
くれた愛車が思い出深い。

バイクに乗る服装は洗めのカー  
キ色コートで、ヘルメットを被り  
跨っている姿が全てオッサンに見  
えるようにするのがコダワリだ  
と笑って話す。24歳の若者なが  
ら、絶版バイクに乗る彼女想いの  
好青年だ。

そんな彼に導かれるように、彼  
女は今夏7月にバイクの免許を  
取った。初めての愛車は、彼と同

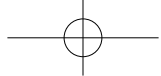
じ赤いヨンフォアを選んだ。

「ハタチでクルマの免許を取り乗っ  
ていました。彼がバイクに乗って  
いたので、私も趣味になる物が欲し  
かった。同じ赤いヨンフォアで、並  
んで一緒に走りたいと思ったからで  
す。大事な人と同じバイクで並ん  
で走れるなんて、ウレシイし楽し  
いです！」

そう言われて隣で照れる彼に  
とっても、こんなにウレシイこと  
はない。付き合ってから間もない彼  
女が、自分の好きな趣味に共感  
し、同じ絶版バイクに乗るために  
免許を取り、愛車を買って一緒に  
走ろうと言ってくれたのだから。

彼氏にウエマツへ連れて来ても  
らい悩んだ末に、彼女はヨンフォ  
アを選んだ。当初は黒いカワサ  
キFXを探して、赤いヨンフォア  
と悩んだ。来店3回目にして両  
方に跨り、足着きが良かったヨン  
フォアに決めて購入した。

彼女は1人で乗らず彼と一緒に  
で、雨の日は絶対に乗らないと言  
う。休日には晴れたら、少しでも  
2人で走りに行く。冬は寒いので  
乗りたくないと言えぬが、ラ  
ブラブな2人なら心は温かい。彼  
女が絶版バイクに慣れてきたら、  
心残りの黒いFXに浮気する日  
が来るかも!?

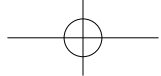


彼の愛車ヨンフォアは1974年式のイギリス仕様で、398ccフレームに408ccエンジンを搭載する。シビエの凹みヘッドライト、社外のハンドルとショート管を装着。見た目はサビているが、内燃機関はしっかりメンテナンスし、走って楽しいヨンフォアを目指しているようだ。いつか大型の免許も取って、火の玉カラーか黒いZ1に乗りたいと話す。



彼女の愛車ヨンフォアは、1975年式のドイツ仕様をウエマツにて国内仕様で購入した。真っ赤な外装に社外のタックロール、オイルクーラーを装着。納車してから変更したパーツはなく、綺麗なコンディションで乗っている。今後はハンドルをカスタムし、マフラーも集合管に換えたいらしい。所有して間もなく半年を迎え、今のところヨンフォア一途だ。





夫のタンデムで妻も目覚め  
夢は夫婦で同じ大型バイク

東京・多摩に在住する的場さん夫妻は、結婚21年目を迎えたカワサキ乗り。夫はKZ1000、妻は350SSという渋い愛車チョイスだ。

夫・一也さんは中学生の頃からバイクやクルマに興味を持ち、16歳でバイク免許、18歳でクルマ免許も取得した。原チャリに始まり四輪を所有して、30代から再びバイクに乗り始めた。最初の絶版バイクは、赤いフレック塗装のホンダ・ヨンフォアだった。40代半ばの約4年前に、このKZを絶版ウエマツ東京本店で購入した。

「ウエマツが八王子に移転する前の日野の時代からバイクやパーツを見に行っては、憧れの旧車に乗りたいたいと思ってましたね。キットバイクというシステムの第1号車で、自分の好きな外装やパーツを組みました。真っ黒な外装に、ゴールドのキャストホイールが気に入ってます」と話す。

夫の愛車は黒いカワサキKZ1000のA1モデルで、アメリカ・ネブラスカ州のリンカーン工場にて生産された1977年式だ。絶版ウエマツのキットバ

イクで、ステージ4整備・保証付き180万円で購入した。

「そんなKZ乗りの主人が楽しそうに見えて、後ろに跨ってタンデムでツーリングに連れて行ってもらううちに、自分でバイクに乗ってみたいとなったのがキツカケです。まさか私も絶版バイクに乗るなんて、結婚した当時は思ってませんでしたね」と妻あきごさんも笑う。17歳の頃に原チャリこそ乗ったが、結婚して以来20年間は夫のバイク趣味を見守ってきた。昨秋10月に中免を取り、今秋で1年になるという。

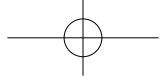


Owner | 的場一也 / あきごさん夫妻

■愛車: カワサキKZ1000 / 350SS ■所有歴: 約4年 / 約2ヵ月



ZEPPAN  
BikeLife



妻の愛車350SSは、クリーム色ライン外装がオシャレだ。赤茶の革ジャケットも、女性ライダーらしく似合っている。年頭に購入した350FOURで運転が上達し、ホンダ以外も乗りたい余裕が出て来て、カワサキのマニアックなマッハを選んだ。先月11月上旬に納車されたばかりで、レインボー外装をオーダー済み。マーシャルのヘッドライトに、スガヤのチャンバーを鳴らす。



夫の愛車KZ1000の外装は、ブラックメッキやパウダーコートで塗装し黒く統一した。黄色いマーシャルライト、前後のFRPフェンダー、メッキ仕様スタビライザー、オイルクーラー、エンジンガード、JMCバックステップ、ミスティのマフラー、燃料計を装着。足回りはMKIIの金色キャストホイール、トレンチカットのブレーキローター、マルゾッキのサスを履く。

妻の愛車はカワサキ350SSの白いマッハで、1972年式の初期モデルだ。夫と相談しウエマツにてステージ4整備170万円で購入し、先月11月上旬に納車されたばかり。女性ライダーが求める足付きを良くするため、アンコ抜きシートをオーダー製作した。

実は、夫はピンク外装で初期型のスズキGT750を約2年前に、妻は一目惚れしたシルバー外装のホンダCB350FOURを約1年前にウエマツで購入していた。現在それぞれ2台持ち、夫婦で4台持ちの贅沢な旧車ライフを送っているそうだ。夫が楽しむバイク趣味に、妻も感化され後を追いかける。休日は仲良くツーリングに出かけて、共通の趣味で夫婦の絆も深まり、何とも羨ましい限りである。妻は今後もっと運転を上達し、大型の免許にもチャレンジして取れたなら、夫婦で同じ大型バイクに乗る日も夢見ている。夫はKZ1000を今後もっと黒くカスタムし、カワサキ750SSも欲しいと告白する。妻にKZ1000を譲り、夫が750SSを手にする日も近い!?